

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメントコミュニティ		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>草津ならではの地域性を活かし、温泉での入浴ができるようにしている。 皆さんで昼食やおやつを作ったり、出前を取ったりして食を楽しんでいただけるようにしている。 複合施設ならではの合同で参加できる行事を開催し、ショートステイのご利用者様たちと交流できる場を設けている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が落ち着いて生活ができるよう、その方の意向を尊重した居室環境が整えられ、くわえて臭いにも配慮して、屋内外の清掃が行き届き、床暖房を施した室内には必要な加湿ができるよう、加湿器の導入や温度・湿度管理がされている。また、隣接するマンションからの視界を遮るよう磨りガラスを設置することにより、圧迫感なくプライバシーに配慮した空間を整えている。食事提供では、月2回程度利用者の希望する調理づくりの食材やお菓子を買いつけたりしながら、バランスのよい手作り調理の提供と併せて、ユニットで味噌汁やおやつを利用者の方と一緒に作り、楽しい時間の提供が行われている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和している。 全職員が理念を念頭に置いて介護を実践している。	理念の一つに「安心、やすらぎのある家庭生活を継続する」があり、利用後まもない落ち着いた利用者の方には、言葉かけや視線を合わせて話すなどしながら、関係形成を優先し支援をしている。また、理念について、日々の介護支援に有効活用できるよう、職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路愛護や神社の祭りなど、地域の行事に参加し、交流を図っている。	できるだけ利用者が暮らす環境に触れるよう考えて、地域の祭り行事と一緒に出かけ、昔話に花が咲くよう話を聞きながら、職員が利用者を知る機会ともしている。また、事業所で行うイベント(地域の方を招いて)を企画し、交流の場所を提供する取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談を必要に応じ実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の状況や地域交流の報告を行い、出席された方々から地域の情報や意見を賜っている。	委員である交番所長の意見から、単独外出により帰れなくなった利用者の早期発見のため洋服や靴に名前を記載することや通報時に利用者の特徴を伝えることなどを職員で話し合い、実践できるよう反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から管理者や計画作成担当などが、入居されている方の情報収集を行ったり介護保険の報告のために連絡関係を保つようになっている。	役場の福祉課と顔の見える関係を作り、町にある唯一の「認知症対応型居宅介護事業所」が存続できるように、空室情報提供や介護保険などの必要な情報収集を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて身体拘束についての理解を深めている。 全職員で身体拘束をしないケアを実施している。	定期に行う勉強会で、「身体拘束とは一人ひとり固有に感じる拘束がある」をテーマにして継続して話し合いをしているが、職員間で意見が異なることもあり、共通認識にたどり着かない現状がある。	今後も、職員間での継続した話し合いにより、職員間の共通認識の上、統一したケアが行えるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の教育を徹底し、言葉遣いにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があった場合には手続きが迅速に行えるように関係者や機関の情報を備えている。 実際に1名の方が自立支援事業のサポートを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行い、契約に至るまでの間にグループホームの施設や生活状況を見学していただく。 理解していただいたうえで契約を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とコミュニケーションをとる機会を設けている。ご家族からの電話の内容も必要に応じて支援経過記録に記入し、情報の共有に努めている。毎月の生活状況を手紙に書いて送っている。	毎月の請求書送付時には、利用者の暮らしの状況報告や写真を同封としている。職員は家族とのよい関係及び意見の言いやすい場の提供ができるよう、コミュニケーションを図っている。また、利用者の日常に関わるメンバーの一員として家族が関われる方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホームの職員でカンファレンスを行なっている。	職員の希望休暇を聞き、勤務体制に負担のないよう要望を反映させている。日常的ななかで意見を聞く他、会議などの機会を活用して意見集約を行い、管理者・施設長対応としているが、内容によっては、法人に報告する流れとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価を行なっている。 評価の内容に研修の参加や資格取得を組み込み、向上心を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、勉強会を開催し職員の研修を実施している。 新入職員には担当の指導者をつけ、業務を行ないながら技術を身に着ける体制をとっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の集まる場には出席するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを密接にし、困りごとや不安を聞いている。安心してサービスを利用できるように信頼関係を築くことを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談を通じて困りごとに耳を傾けながら、ご家族の要望を把握し、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聴取で多様なサービスの選択肢があることを提示する。より最適なサービスが利用できるように支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすもの同士、関係が円滑に進むようにコミュニケーションを図る。人生の先輩であることを念頭に置き、こちらから色々なことを学ぶ姿勢で接する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に生活状況や身体状況を随時報告し共有している。面会にも来ていただき、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会にきていただけるようにしている。ご家族と外出されたり、宿泊されたりするのを支援している。	希望や意見の言える利用者の「家に帰りたい」などの対応としては、実現できるように関係者への連絡を行い、外泊へとつながっている。言語化されない利用者においては、馴染みの場所や人との関係の継続にはいたっていない。	利用者の人間や地域の関係などを把握し、利用者の思いを本人本位に検討し、馴染みの場所や人との関係継続につながることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握する、利用者様同士で会話をされている場合には、時には職員が間に入って話題を提供し、円滑な人間関係を築く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談があった際には話を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを尊重し、今までの暮らしを継続できるように努めている。仮に困難な場合であっても利用者様本位の生活になるよう支援している。	生活を営む上で不可欠な活動に関わる食事の準備や洗濯物をたたむなどを、してもらっている。今後は、そうした活動が、本人が本当に臨んでいるのか(好きなのか)も含めて検討して支援したいと考えている。	言語化できない方であっても、意向にそった支援を提供できるよう、職員および関係者の情報をもとに本人本位に検討し、個々の利用者の思いが反映できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を把握し、これまでのサービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の過ごし方や身体状況などを課題分析し、支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施している。介護職員やご家族からの情報をもとにケアプランを作成したり、アセスメントを行ったりしている。	介護支援専門員が、職員の意見や家族の意見を反映し作成している。職員は、一人ひとりの介護目標を把握して実践を行い、支援経過記録に記録し、モニタリングに反映し話し合いの機会に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を細かく介護記録に記している。全職員が情報を共有できるようにタテ時に申し送っている。介護記録やモニタリングを参考にプランの変更を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の嗜好にあったレクリエーションを取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴や楽器演奏などボランティアの地域資源を活用し、心豊かな生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に受診できるように付き添い介助を行なっている。ご家族には電話で受信の内容を伝えている。	入居時に、かかりつけ医の希望を聞き、継続受診、加療につなげている。町内の医療機関であれば職員で対応を行い、家族及び職員への状況の報告を行い、生活における注意事項などを周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康管理を実践している。重度化しないように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は面会に行く。メンタルケアや身体状況の確認などの情報交換をし、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族に終末期のケアについて説明を行っている。重篤化したときのことも想定した話し合いを常に行っている。医療機関との連携を図っている。	入居時に、食事が介助でもとれない場合などの重度化した場合には対応できないことの説明を行い、了解を得ている。重度化した場合には、協力病院及び家族の希望を反映した医療機関につなげられるよう、利用者ごとに主治医や家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じてAEDや心肺蘇生術を学んでいる。急変や事故発生に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの災害を想定した避難訓練を年2回実施している。日中・夜間を創英したものを2回にわたって実施している。避難場所の確認も行なっている。	近隣住民、マンション住人、町内協力者をメンバー構成にした「緊急連絡簿」が作成されている。定期に行う避難訓練では、2階からの避難誘導の仕方や避難順序、優先順位を意識し、ぬれタオルで口を覆うなど、建物構造上の注意をうけた対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で「尊厳とは何か」を学ぶ機会を設けている。 その人らしい生活が送れるように支援し、人生の先輩であることを念頭において声をかけるように職員の教育を行なっている。	研修会「尊厳について」を行うなど、特に排泄介護時の声かけなどにおいては羞恥心に配慮するようにしている。利用後のトイレ内の臭気は残らないよう処理を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で必ず自己決定が出来るようにコミュニケーションをとり、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で物事を勧めないように気を付けている。利用者様のペースを尊重した生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら選択した衣類で過ごせるように努めている。男性の場合は髭剃りを日課とし、好みに合った服装ができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションの一環として利用者様方と一緒におやつや昼食を作ったり、出前を取ったりして食事を楽しんでもらっている。	食事は、事業所の厨房で作られ、ユニットごとに味噌汁やおやつ作りが行われている。食べることに加えて、味噌汁の具材を切ったりなどの作事を職員と一緒にしながら、たのしみへとつなげている。色彩豊かに、旬のものを提供できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はその都度記録に残している。 糖尿病など食事に制限のある方は主治医の指示通りになるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。介助が必要な方は職員が対応して洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	共同トイレを使用して排泄していただいている。ズボンの上げ下げや陰部を拭くなど、ご自身でできることはいただいている。	日常のケア内容は、時間での誘導や着衣の上げ下げなど自力で出ないところの支援としている。	利用者の身体機能のレベルを把握し、できる行為やできそうな行為を職員間で共通認識した上で、自立支援の援助を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士が作成した献立に沿って食事を提供し、水分摂取量の把握に努めている。また、体操やレクリエーションを行ない、身体を動かす機会を増やすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の状況に応じて支援を行っている。更衣時に体重測定を行ない、えい	事業所の「温泉浴場」を活用し、利用者とは話をしたり、一緒に草津節などの馴染みある歌を口ずさんだりしながら、利用者がくつろいで入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には、声かけや入浴の効果を職員で話し合い対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干したり、定期的にシーツや布団カバーを交換したりして気持ちよく眠れるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が各利用者様の薬剤情報を把握できるようファイリングしている。症状や体調が変化したときには主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などの情報を把握し、日常生活の中で楽しんでいただけるよう個別の支援を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様と一緒に外出されたり、宿泊されたりするのが楽しめるように支援している。グループホーム内で使う食材の買い出しを利用者様と一緒にしている。	月2回お菓子や食材と一緒に買い物に行く機会を設けたり、ドライブをする際には、利用者の馴染みの深い所へ意識していくことで、利用者の外出することへの意欲を高める工夫をしている。積雪地域にあるので、庭先にデッキコーナーを設置して、天候を見て外気浴を楽しんでもらう支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様・ご家族に同意を得たうえで事業所の金庫に小口現金を預かっている。 必要な		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたときは返信できるように支援を行なっている。 施設内の電話は自由に利用でき、必要時には取り次いでいる。 携帯電話の使用も認め、自由にご家族と連絡を取り合えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や強い日差しに注意している。 利用者様が皆で団らんでできるような空間づくりを心掛けている。 季節をイメージした花や昆虫などの壁面飾りを作成し、飾り付けている。	乾燥防止に加湿器を導入したり、食後の臭いが残らないよう配慮したりしている。いたるところに花を飾ったり、季節を感じられるよう写真や月のイベントの案内告知をしたり、くつろげるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを置いて他の利用者様とゆっくり談話ができる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具を持参していただき、心地よく過ごしていただけるようにしている。	自宅で愛用していた家具の持ち込みは自由であり、事前にそうした説明を行い、希望のある方は自分のテレビやテーブル等を配置して馴染みのものがある安心した生活空間のなかで、生活様式にあわせて暮らせるよう尊重した支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩くときに障害物のないよう、動線を確保している。自立した生活が継続できるように支援している。		